

労働市場の変化による所得推定に基づくマイクロシミュレーション —既存の社会保障制度とベーシックインカム制度の比較—

○根岸美知 李皓 (静岡大学)

Micro-Simulation based on Income Estimation due to Changes in the Labor Market

-Comparison of Existing Social Security System and Basic Income System-

*M. Negishi and H. Lee (Shizuoka University)

概要— 従来の社会保障制度に代わる政策として、政府が国民に対して最低限の生活を送るのに必要な額の現金給付を無条件に行う政策であるベーシックインカムが期待されている。本研究は、マイクロシミュレーションモデルを用いてベーシックインカムが貧困問題の解消に有効であるかを考察する。これまでの研究では、浜松市中区を対象とし、一年のみのシミュレーションを行った。本研究では、地域を広げ、労働市場や人口の変化に応じたシミュレーションサイクルを用いることにより、ベーシックインカムが人々の所得に与える長期的な影響を考察する。

キーワード: ベーシックインカム, マイクロシミュレーション, 社会保障

1 はじめに

1.1 社会保障制度の問題点

近年、日本では高齢化により年金総額が増加している。また、尾藤ら (2011) によると、生活保護制度の捕捉率は2010年で15.3%~18%程度と推定されているため、生活保護制度が完全に機能しているとは言い難い。これらのことから、現在の社会保障制度は大きな問題を抱えているといえる。

1.2 ベーシックインカム

ベーシックインカムとは、社会保障制度として、政府が国民に対して最低限の生活を送るのに必要な額の現金を無条件に給付する政策である。

2 既存研究

浜松市中区の仮想個票データを用い、2015年のみのシミュレーションを行った。世帯ごとに、従来の社会保障制度 (年金, 生活保護) を継続した場合、それらを廃止し月額8万円のベーシックインカムを導入した場合の所得の計算を行った。

3 研究手法

本研究では、これまでの研究に加え以下のことを行う。

- ・産業モデルを作成し、雇用数や非正規雇用者の割合の増減を考慮する
- ・自営業などの所得を考慮する
- ・ライフサイクルを考慮した動的なモデルにする
- ・範囲を広げてシミュレーションを行い、比較することにより地域差について考察する
- ・ベーシックインカムの支給金額による違いを考察する

3.1 使用データ

本研究では、村田・原田 (2019) による合成人口データを用いる。

3.2 自営業の所得推定

所得が0かつ18歳~65歳のエージェントに対し、国民生活基礎調査の実際の所得分布と仮想個票上の所得分布が一致するように所得の割り当てを行う。

3.3 ライフサイクルとシミュレーションモデル

本研究では INAHSIM モデルのデータ構造、シミュレーションサイクルを元にし、モデルを構築する。

ライフイベントは INAHSIM モデルの出生、死亡、婚姻、離婚、就業状態の遷移、単身化、老親との同居といったライフイベントに加え、就業状態の遷移の後に所得の推定を行う。また、就業状態の遷移に関しては INAHSIM モデルと異なる、後述の産業モデルによって推定を行う。

3.4 産業モデルと労働市場

産業モデルでは事業所の数、規模について3つのパターン (増加, 変化なし, 減少) を想定し、以下の手順でシミュレーションを行う。

- ①3つのパターンごとに事業所の数、規模を確率的に変化させる
- ②事業所ごとに正規雇用と非正規雇用のそれぞれの求人数を決定する
- ③無職のエージェントと各事業所の求人のマッチングを行い、給与を決定する。

参考文献

- 1) 山森亮: 「ベーシック・インカム入門 無条件給付の基本所得を考える」, 光文社 (2009)
- 2) 尾藤廣喜, 吉永純, 小久保哲郎, 生活保護問題対策全国会議: 「生活保護『改革』ここが焦点だ!」, あけび書房 (2011)
- 3) 稲垣誠一: 「日本の将来社会・人口構造分析 マイクロシミュレーションモデル (INAHSIM) による推計」, 財団法人日本統計協会 (2007)